

製品名: ATG7 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21471**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:78kD;Observed MW:78kD

抗原情報

遺伝子名	ATG7 APG7L Ubiquitin-like modifier-activating enzyme ATG7;ATG12-activating enzyme E1
別名	ATG7;Autophagy-related protein 7;APG7-like;hAGP7;Ubiquitin-activating enzyme E1-like protein;
遺伝子 ID	10533.0
SwissProt ID	O95352
免疫原	ヒト ATG7 の合成ペプチド

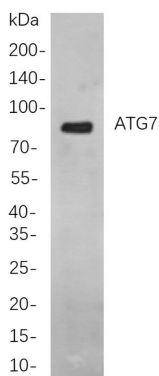
背景

細胞局在: 細胞質。この遺伝子は、オートファジーおよび細胞質から液胞への輸送に必須の E1 様活性化酵素をコードしています。コードされているタンパク質は、長期の代謝ストレス下における p53 依存性細胞周期経路を調節すると考えられています。軸索膜輸送、軸索恒常性維持、ミトファジー、脂肪分化、造血幹細胞維持など、複数の機能に関連しています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2015 年 9 月]

研究分野

-

画像データ



ATG7 ウサギ mAb を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。